

## レジデンシャル事業（Noism Company Niigata）評価書

【期間】 評価期間はNoismのシーズン（秋～夏）とする ※21stシーズン：R6年9月～R7年8月

【評価】 A：要求水準（評価指標）を達成し、かつその達成度・内容が優れている（複数の指標の場合、全てを達成し、かつその達成度・内容が優れている）  
 B：要求水準（評価指標）が達成されている（複数の指標の場合、全てが達成されている）  
 C：要求水準（評価指標）が達成されていない（複数の指標の場合、全ては達成されていない）  
 ※18thシーズン（市による評価）&19・20thシーズン（財団による評価）と同じ

事業・活動	指標（アウトカム発現の裏付）	21st実績	自己評価	財団・市・外部有識者意見
<b>文化度向上系</b> ・Noism公演（市内） ・Noism公演（市外） ・Noism公演映像配信 ・柳都会（対談企画） ・他団体依頼公演等 ・ダンスカンパニー運営 ・Noism2 他 【アウトカム(最終)】 「芸術文化の継承・発展・創造・発信・交流」が盛んに行われている	1：Noism0,1,2新潟公演企画数【3企画以上/年】	3企画	B	<b>【財団】</b> 21stシーズンは、Noism0/Noism1「円環」、Noism2定期公演vol.16、Noism0+Noism1「アルルの女/ボレロ」を劇場で開催した。指標2の新潟公演の来場者数は、19・20thシーズンで実施の学校貸し切り公演がなく指標を下回ったためC評価とした。来る22ndシーズンのNoism0・1夏公演は、これまでの「金土日3公演」から「土日2公演+学校貸切公演+土日2公演」に変更し来場者数の増加を図る。いずれの公演も99%以上の満足度を得たため指標3はA評価とした。なお「アルルの女/ボレロ」は専門家からも高い評価を得て、毎日・読売・公明新聞等の全国紙をはじめ、専門誌、Web上に公演評が掲載された。指標5の新規来場者率は21.5%でA評価。指標6の柳都会実施数は21stシーズンに第30回の区切りを迎え（R6年度）、22ndシーズンはこれまでのゲスト1人との対談形式を見直しゲストを複数人に変更のうえ実施する（R7年度）。これにより開催経費が増加するため21stシーズンの2回目の実施（R7年度）を見送った結果1回で指標を下回りC評価。指標8のレクチャー系講座は、芸術監督等による講演会が8回と指標を大きく上回りA評価となった。全体として【レジデンシャル制度の目標・方針】【アウトカム】の実現に大きく貢献した。 <b>【市】</b> 多くの指標において要求水準を達成したことを評価する。指標5については、新規来場者を獲得するため、小学校のアウトリーチの際の働きかけなど新たな取組を評価する。一方、要求水準を満たさなかったもののうち、指標2では新たな取組を含め、指標の達成に努めていた。指標6については、りゅーとびあにおいて、事前に計画を確認しながら、要求水準を達成できるように対応していただきたい。 <b>【外部有識者】</b>
	2：Noism0,1,2新潟公演の来場者数【3,235人以上/年】	2,937人	C	
	3：Noism0,1,2新潟公演の満足度【95%以上】	99.2%	A	
	4：Noism0,1,2県外公演企画数【2企画以上/年】	2企画	B	
	5：Noism0,1,2新潟&県外公演の新規来場者率【10%以上】	21.5%	A	
	6：柳都会実施数【2回以上/年】	1回	C	
	7：金森穰氏（Noism芸術総監督）以外の振付家の招聘【1回以上/年】	3回	A	
	8：レクチャー系講座実施【3回以上/年】 ※公演時のアフタートークにおける公演解説を含む	8回	A	
	9：他団体との連携企画数（共催・受託等）【3回以上/年】	6回	A	
<b>社会包摂系</b> ・他団体依頼公演等（再掲） ・アウトリーチ ・ワークショップ&オープンクラス 他 【アウトカム(最終)】 「多様な人（老若男女・障がい者等）が生きやすいまち・社会」になっている	10：小中学校向けアウトリーチ実施数【10回以上/年】	23回	A	<b>【財団】</b> 指標10のアウトリーチは、新潟市内20の小中学校に加え、新潟県企画「新潟県文化祭2024」により、上越市、十日町市の小学校3校を訪問。指標11のワークショップも数多くの依頼に応え県内外で8回。指標12は音楽事業のアウトリーチを参考に内容を改良したこともあり96.8%と高い満足度であった。いずれも指標を大きく上回ったためA評価とした。 <b>【市】</b> 各指標において要求水準を達成したことを評価する。 <b>【外部有識者】</b>
	11：ワークショップ実施数【3回以上/年】	8回	A	
	12：アウトリーチ参加者満足度【95%以上】	96.8%	A	
<b>生きがい創出系</b> ・オープンクラス&スクール ・活動支援&寄付会員獲得 他 【アウトカム(最終)】 「多様な人（老若男女・障がい者等）が生きやすいまち・社会」になっている	13：スクール実施数【2企画以上/年】	1企画	C	<b>【財団】</b> 指標13のスクール実施数は、高校、大学ダンス部向けに行っていたものの対象者を指標14のオープンクラス受講に誘導する見直しを行い結果、サマースクール1企画のみの実施でC評価となった。オープンクラスは「バレエ」「レパートリー」等を実施した。いずれも年齢・対象（初心者、経験者）の異なる様々なクラスを用意、幅広い受講生にきめ細やかに対応し、指標15の満足度は100%と高くA評価とした。Noismの活動を資金面で支援する活動支援会員（公演チケットの割引等の対価性あり）は100名を超えているが、その半数超が市民であり指標値を1割程上回り指標17はB評価とした。対価性のない寄付会員は指標値を2割程上回り指標18はA評価とした。社会包摂系事業と合わせてC評価は1つだけ、全体として【レジデンシャル制度の目標・方針】【アウトカム】の実現に大きく貢献した。 <b>【市】</b> 多くの指標において要求水準を達成したことを評価する。指標13については、指標14へ誘導する見直しを行ったことだが、高校・大学のダンス部向けのオープンクラスの参加者数の状況や、見直しの効果を明らかにしていただきたい。
	14：オープンクラス実施数【3企画以上/年】 ※一般市民向け（バレエ・からだ大人・からだ子供・レパートリー等）	3企画	B	
	15：オープンクラス参加者満足度【95%以上】	100%	A	
	16：活動支援会員数【103人以上/年】	106人	B	

<b>生きがい創出系</b> ・オープンクラス&スクール ・活動支援&寄付会員獲得 他 【アウトカム(最終)】 前頁記載のとおり	17: 16のうち、市内在住者数【48人以上/年】	54人	A	【外部有識者】
	18: 寄付会員数【21人以上/年】	27人	A	
	19: 18のうち、市内在住者数【11人以上/年】	11人	B	
<b>文化度向上系</b> 同上 【アウトカム(最終)】 芸術文化が「まちづくり(観光・国際交流・経済等)」に寄与している	【再掲】 4: Noism0, 1, 2 県外公演企画数【2企画以上/年】	2企画	B	【財団】 指標20は指標値を大幅に上回ったためA評価とした。全体としてC評価はなく、【レジデンシャル制度の目標・方針】【アウトカム】の実現に大きく貢献した。
	【再掲】 9: 他団体との連携企画数(共催・受託等)【3回以上/年】	6回	A	【市】 各指標において要求水準を達成したことを評価する。
	20: 新潟公演の市外者来場率【10%以上】	22.3%	A	【外部有識者】

総合所見		
財団(自己評価)	新潟市(意見)	外部有識者(意見)
<ul style="list-style-type: none"> <li>国際活動部門は、外部振付家として近藤良平氏を招いての「円環」を冬に、芸術総監督・金森穰による新作『アルルの女』と劇場版に改訂した『ボレロ』を夏に公演した。「円環」は、新潟を皮切りに北九州、大津、さいたまと国内ツアーを行い、好評を博した。かつての中心的メンバー、宮河愛一郎・中川賢をNoism0のゲストとして招へいたことで、20年以上にわたるカンパニーの歴史の厚み、深まりを感じさせる公演となった。新作『アルルの女』/改訂版『ボレロ』は、「生と死の欲動を力強く描く」(ダンスマガジン/海野敏氏)など、演出振付家が示した新たな解釈、演出が高く評価された。そのほか、東京都交響楽団との共演によるSaLaD音楽祭、「黒部シアター2025春」、「SCOT SUMMER SEASON2025」で金森穰作品を上演した。</li> <li>地域活動部門は、新潟県の県民文化祭を受託。Noism2の代表作『火の鳥』(演出振付:金森穰)を披露した。アウトリーチ、ワークショップは、内容をアップデートしながら数多く実施した。地域活動と国際活動をつなげるためにアウトリーチを体験した子どもたちを招待する企画も今シーズンから試行し、『アルルの女』/『ボレロ』は多くの子どもたちが来場した。Noism2の定期公演においては、『火の鳥』とともにNoism1中尾洸太、樋浦瞳の新作を上演。Noismメソッドという共通の身体言語を持つ振付家として、ゲスト振付家とは、異なる魅力の作品を発表した。</li> <li>全20の評価項目中、A評価は過半を超える12項目であり、高いレベルで達成できた。</li> <li>3項目でC評価となったが、指標2(来場者数)は財団意見欄に記載のとおり22ndシーズンに改善を図る。また指標6(柳都会実施数)、指標13(スクール実施数)については、事業実施方針の変更に伴うものであるため、指標を意識したうえで芸術監督との意思疎通に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>20項目中12項目でA評価に至っていることを高く評価する。</li> <li>昨年の意見にあった「より広い層へも効果を波及させることを念頭に置いた取組」について、アウトリーチの機会を通じて、児童を招待することで、新規の来場者を増やすという取組を実践したことは評価する。引続き幅広く市民へ波及させることを期待する。</li> <li>C評価のうち、指標2については夏公演の日程変更など来場者の増加に向けた新たな取組に期待する。また、内容の見直しを行った結果、要求水準を達成できなかった項目については、りゅーとびあ内で十分な協議を行い、シーズン途中の見直しによって要求水準を下げないよう努めていただきたい。</li> <li>レジデンシャル制度の基本方針のうち、「本市独自の多様な文化を活用」、「舞台芸術に携わる本市のクリエイティブ人材等の活用」について、各指標の中や財団評価に含まれていないことから、事業実施の中で、それらの取組が行われるように事業の計画を立てる必要があると考える。</li> </ul>	



総合評価(事業評価)
<b>レジデンシャル制度目標①・方針①</b> (対応する事業・活動: 上表「文化度向上系」)
<b>レジデンシャル制度目標②・方針②</b> (対応する事業・活動: 上表「社会包摂系」「生きがい創出系」)
<b>レジデンシャル制度目標③・方針③</b> (対応する事業・活動: 上表「文化度向上系」)